

## V. 特記事項

### 1. 地域の国際化への貢献

本学は、薬学部の単科大学として開学したが、国内外を問わず、異なる分野を学ぶ学生たちが出会い、切磋琢磨することによって、更にこの建学の精神の深化が生まれ、地域社会をはじめ日本並びに世界の発展に貢献し得るとの考えから、創立当初すでに学園の基本構想に総合大学化、国際化が据えられていた。この考えのもと、昭和 61(1986)年の中国・北京中医学院（現北京中医薬大学）との姉妹校提携を皮切りに、昭和 62(1987)年の外国語学部設置を契機に、多くの海外大学と提携し交流を行ってきた。現在では、世界 15 の国・地域の 63 校と姉妹校・友好校等の提携をしている。また、平成 5(1993)年には「国際交流室（現国際交流センター）」を設置し、海外留学・研修への学生派遣、留学生の受入れ及び支援、学内外における国際交流活動など、積極的に地域の国際化に努めている。

地域の国際化への貢献として特徴的な取組みが、平成 6(1994)年から実施している「平成遣中使」事業と「留学生の地域活動」である。

〈平成遣中使〉

・本学学生及び教職員に地元の中高校生、中高教員、一般市民を加えて、姉妹校・友好校への訪問や中国でのスポーツ交流及び歴史文化体験活動を継続して実施している。

〈留学生の地域活動〉

・金沢市内中学校の国際理解授業への参加や高校での中国語教育のサポート  
 ・金沢市、加賀市で開催されるマラソン大会や国際会議などでの通訳や進行サポート  
 ・兼六園などでの観光通訳ボランティア  
 ・大学コンソーシアム石川の「学生による海外誘客チャレンジ事業」への参加など多岐にわたる地域活動を行っている。

### 2. 組織的な初年次教育の実施

毎年度「全学的な教育課程・実施の方針」を定め、全学的な協力体制の下、順次的・体系的な教育課程を編成・実施している。初年次教育プログラムは、学部の特性に応じた入学前教育や入学直後のフレッシュマンセミナーにより、初年次の学修に繋げている。全学共通プログラムとして実施する「全学合同企画」は、学部や学年の枠を超えて学生の交流を促進する重要な企画と位置づけ、学生委員会、教務委員会及び事務局が協力して計画・実施している（令和 2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため中止）。

高等学校から大学教育への円滑な移行を図るため、全ての学部で初年次に基礎ゼミナールを開講している。また、全学部の 1 年生次生共通科目として「北陸大学の学び」（全 8 回）を開講し、建学の精神や歴史、社会的役割等について学んだうえで、各学部から選出された教員による指導の下、学部横断の混成チームを編成してのポスター作成及び発表を行っている。令和 3(2021)年度からは、第 6 回目に混成チームでのグループワーク、第 7 回に学生が「自分を成長させる三本の道」について考え、第 8 回目には混成チームでプレゼンテーションを行う予定である。また、「北陸大学高等教育推進センター」を設置し、関係委員会等との連携を図りつつ、初年次教育充実のための教育施策の改善及び分析の支援を行うこととしている。このように本学では、全学的な協力体制のもと、一貫した初年次教育を組織的に実施している。